

臨床研究の実施に関する情報公開

市立四日市病院では治験審査委員会（臨床研究倫理委員会）の承認を得て、下記の臨床研究を実施いたします。

関係各位のご理解と御協力を御願い申し上げます。

① 研究課題名	下行大動脈汎拡張期逆行性血流と中等度大動脈弁逆流との関係についての検討
② 研究依頼者	愛知医科大学病院 循環器内科 准教授 中野 雄介
③ 研究責任者	循環器内科 部長 渡邊 純二
④ 研究期間	承認日 ～ 2025年8月31日
⑤ 対象者	2015年4月1日から2016年12月31日の期間で当院にて軽度以上の大動脈弁逆流を有し経胸壁心エコー図にて定量的評価が行われた20歳以上の患者さん
⑥ 対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ等の診療情報 <input type="checkbox"/> その他（）
⑦ 研究の意義・目的	<p>中等度大動脈弁逆流の簡便な診断法を見つけることを目的としています。</p> <p>大動脈弁逆流は日常臨床で度々みられる心臓弁膜症であります。高度大動脈弁逆流であれば心血管イベントの原因となるため外科的手術を要し、その重症度評価が重要となります。近年、外科的大動脈弁手術に代わって経カテーテルの大動脈弁植え込み術（TAVI）が急速に普及しています。TAVI術後大動脈弁逆流はしばしば認める合併症であります。その重症度が中等度以上である場合予後不良であることが知られています。よって高度のみならず、中等度大動脈弁逆流の評価が今まで以上に重要となってきています。大動脈弁逆流の重症度はドプラ法を用いた心エコー図で定量的評価を行うことが推奨されています。しかし心エコー図での定量的評価は技術的に難しく煩雑で経験を要し、しばしば困難であります。一方、心エコー図を用いた半定量的重症度評価方法としてHDFR(holodiastolic flow reversal：下行大動脈汎拡張期逆行性血流)が知られます。HDFRは技術的にも容易で短時間で行える簡便な指標であります。HDFRと高度大動脈弁逆流の関連は以前より知られていますが、中等度大動脈弁逆流との関連は明らかになっていません。HDFRと中等度大動脈弁逆流の関係を明らかにすることでより簡便に中等度大動脈弁逆流を検出できる可能性があります。</p>
⑧ 研究の方法	患者情報は当院のカルテ情報をもとに抽出します。それらを用いて下行大動脈汎拡張期逆行性血流と中等度大動脈弁逆流との関係を検討します。
⑨ 倫理審査	治験審査委員会承認日：2020年11月30日
⑩ 結果の公表	論文や学会等にて公表予定
⑪ 個人情報の保護について	本研究実施に関わる者は、患者さんの個人情報の保護に十分配慮します。
⑫ 本研究に関する問い合わせ先	市立四日市病院 循環器内科 TEL：059-354-1111